



Shoin Vision 2030

Shoin Vision 2030 の策定にあたって

学校法人樟蔭学園 理事長

森 眞太郎



学校法人樟蔭学園は、2017年度に学園創立100周年を迎えた伝統ある女子学園です。創立以来、根源である建学の精神を大切に守り続け、これまでに延べ10万人以上の卒業生を輩出し、その長い歴史を通してわが国の女子教育の発展に大きく貢献してきました。

しかし、近年の少子化に伴う就学人口の急激な減少をはじめとして、教育業界をめぐる大きな環境変化により、本学がおかれている状況は年々厳しさを増しています。その中で、本学が今後も社会から必要とされる教育機関として生き残るためには、状況の変化に対応し、教育の質の保証を担保するとともに、経営の効率化による持続的かつ安定した財政基盤を確立しなければなりません。つまりは、ガバナンス機能の強化、教育機能の強化、教職員の能力向上、施設設備の充実等の積極的な取り組みを通して、社会が求める高い水準の教育環境を整え、学生・生徒・園児の満足度向上や出口保証を図ることによって持続的に学生・生徒・園児数を確保することが求められています。そして、本学が永年培ってきた女子教育の伝統にこれらの新しい取り組みを融合させることにより、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた社会に貢献する女性を育成するという、本学が掲げる創立以来の建学の精神を守り続けることが可能となります。

第Ⅰ期中長期計画（2010年度～2014年度）、第Ⅱ期中長期計画（2015年度～2019年度）においては、2017年度に創立100周年という大きな節目を迎えるにあたり、その機会を新たな100年に向けた基盤を整備する機会と捉え、周年記念事業として様々な取り組みを行うとともに、施設設備の充実等、教育環境の再整備に取り組んでまいりました。

そして、2020年度以降は、より長期的な視点でのビジョンが必要であるとの認識のもと、経営戦略本部会議にて長期ビジョン「Shoin Vision 2030」を策定しました。これは、学園全体で一つの方向を目指し、新たな時代において本学園のブランドを再構築することを課題としています。本学園の根源である建学の精神へ立ち返り、樟（くすのき）のように内なる輝きを発する女性を育成する『樟蔭美』をブランドコアとして再定義しました。この「Shoin Vision 2030」の達成に向けた具体的な行動計画として、第Ⅲ期中長期計画（2020年度～2024年度）を策定いたしましたのでここに公表いたします。

今後は、この計画に基づいて学園の改革を推進し、永続的に社会から必要とされる教育機関としての地位を確固たるものとし、わが国の女子教育発展への一層の貢献を果たしてまいります。関係者の皆様方には諸計画についてご理解いただきますとともに、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆目次

Shoin Vision 2030 の策定にあたって	1
I. 学校法人樟蔭学園の将来像（長期ビジョン）	3
1. 学園ブランドコア「樟蔭美」の提唱 ～樟蔭プライドの言語化～	3
2. 設置学校の長期ビジョン	5
(1) 大学	6
(2) 中学校・高等学校	7
(3) 附属幼稚園	8
II. 長期ビジョン達成に向けた中期計画	10
1. 中期計画の位置づけ	10
2. 設置学校の中期計画	10
(1) 大学	10
(2) 中学校・高等学校	13
(3) 附属幼稚園	15
3. アクションプラン	16

I. 学校法人樟蔭学園の将来像（長期ビジョン）

1. 学園ブランドコア「樟蔭美」の提唱 ～樟蔭プライドの言語化～

樟蔭学園のブランド力を再構築するにあたり、樟蔭学園が100年の歴史の中で培ってきた価値観を再確認するため、在学生、在校生、及び複数の世代の卒業生にインタビューを行いました。

そこから感じられたのは、樟蔭学園で過ごすことによってそれぞれが内なるものとして培った、女性としての芯であり、意志であり、場合によってはその強さでもあり、自らが生きていくための拠所、価値観が「美」というキーワードに集約できるのではないかとのことでした。

今から100年余り前、樟蔭高等女学校がその建学の精神として掲げた「現代社会の進歩に対応し得る『高い知性』と『豊かな情操』を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成を目指す」は、100年の時を重ねて、脈々と樟蔭の「当たり前」として受け継がれています。

他者に依存することなく、自らの生きる力を育み、意志と知恵を持って行動する。知性と情操を磨き、女性ならではの視点・気づきで社会の変革に貢献する。凛とした佇まいを持って人と接し、他者の気持ちを豊かにし、円滑な意思疎通を実現する。

樟蔭学園が100年の歴史で育てあげてきたものの根幹は美であり、そこには明らかに樟蔭ならではの「樟蔭美」という価値観が存在していることに気づかされました。

このような気づきの中で、長期ビジョン「Shoin Vision 2030」を策定するにあたり、学園ブランドコアとして「樟蔭美」を提唱するにいたりました。

「樟蔭美」はすでに本学園が持っている価値観、これまでやってきたことの言語化・可視化であり、樟蔭そのものが持つ財産の顕在化です。

そして自分たちの築いてきたものと今とを、言語化・可視化し、誇りの再生産をするということに意味があります。卒業生をブランド価値として裏付けていくリアルな存在としてクローズアップし、「樟蔭美」の体現者として社会に還元していきます。

(1) 「樟蔭美」の定義

樟のように、内なる輝きを発する女性を育てます

- 樟のように揺るぎない芯のある女性
- 樟のように深緑の葉をたたえ、常に輝き続ける女性
- 樟のように薫香かぐわせ、仲間が集う女性

(2) 「樟蔭美」に込めたメッセージ

本学園の使命は、「樟のように、内なる輝きを発する女性を育てる」ことです。

○樟のように揺るぎない芯のある女性

未来が不透明で正解がない時代には、誰かの意見に流されるのではなく、自分らしい生き方の軸を持つことは何よりも重要になります。自らの信念に基づいた美しく振舞うためのモノサシを持ち、物事を判断し、行動できる女性は、激変する社会にあっても、常に道を切り拓き、自分の人生を生き抜くことができます。

○樟のように深緑の葉をたたえ、常に輝き続ける女性

大地にしっかりと立つ強い幹には、青空いっぱいのにびのびと枝葉が広がり、新緑の葉が茂ります。その葉の輝きは、幹から生まれる「内なる輝き」の結晶です。「内なる輝き」は、知性、情操、品性に裏付けられた強い芯の輝きです。新緑から深緑に、個性をゆがめることなく、人としての魅力、人としての価値を色づけていきます。さらに、「内なる輝き」は、外の日差しをうけ、キラキラと輝きます。その日差しに応援され、輝きを増していくのです。

○樟のように薫香かぐわせ、仲間が集う女性

「内なる輝き」を持った人は、その輝きを惜しみなく社会に還元します。それは自分のためではなく、人や社会を幸せにするために力を発揮します。人の気持ちを慮り、人の弱さを癒し、人の喜びを自分のことのように喜べる女性。そのような女性は家族、友人、同僚との人間関係、社会や国を超えた世界とのつながりにおいて、その人間関係の要として、活躍していくことでしょう。

新しい時代の夜明け

この時代に活躍できる、「内なる輝き」を発し、その輝きを社会に還元し、人と社会の幸せのために力を発揮する、「凛とした女性」を育てることを約束いたします。

樟（くすのき）＝樟蔭学園のシンボル
クスノキ科の常緑広葉樹。毎年、瑞々しい若葉に入れ替わり、枝先に蕾と花を咲かせる。また、樹皮からの樟脳は薬用として活用される。

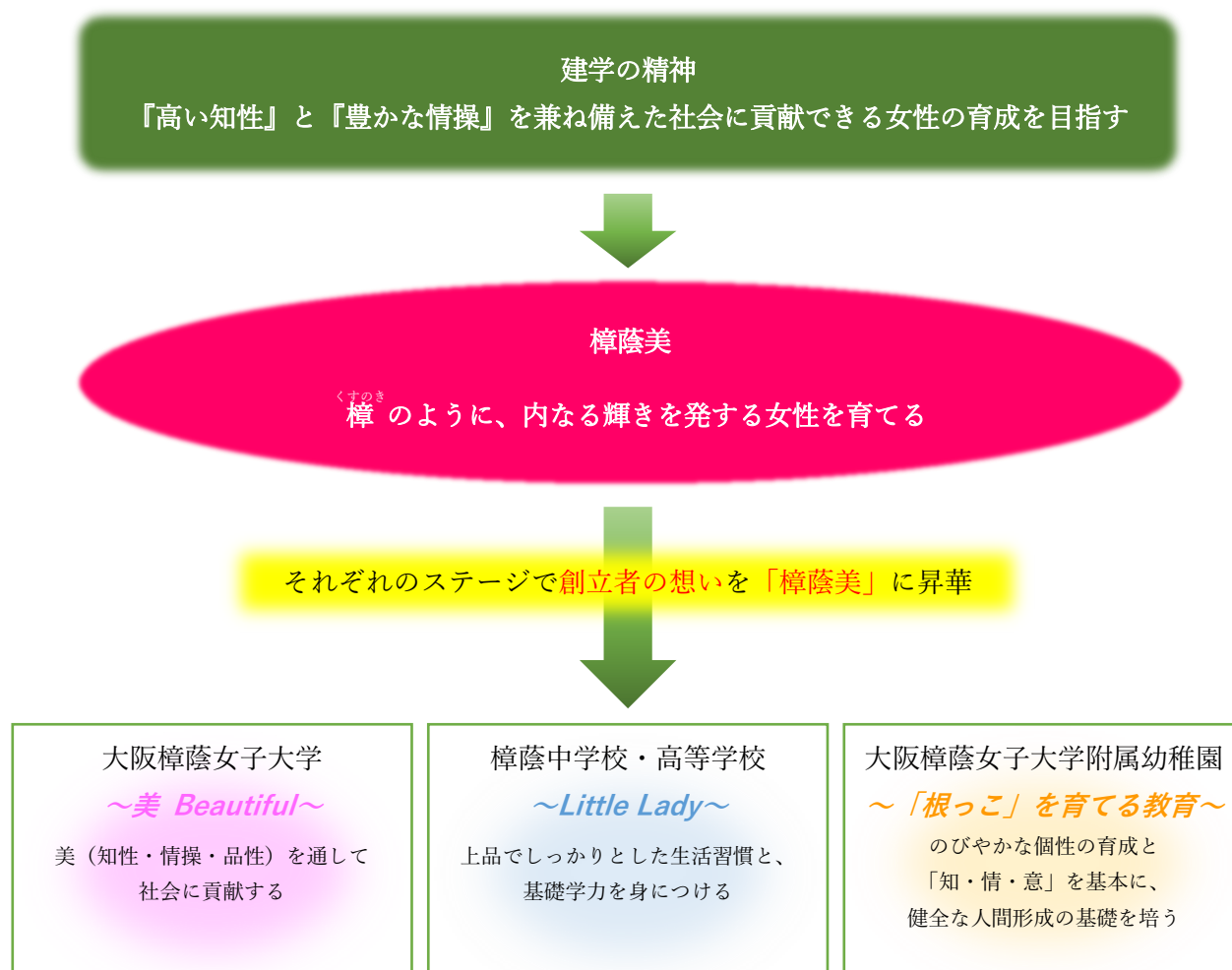
2. 設置学校の長期ビジョン

本学園は現在、大阪樟蔭女子大学・大学院、樟蔭中学校、樟蔭高等学校、大阪樟蔭女子大学附属幼稚園を設置し、それぞれにおいて建学の精神を受け継ぎ、時代の変化に対応しながら、一貫して女子教育に取り組んできました。

2030年に向けた学園のブランドコアとして「樟蔭美」を提唱するにあたり、私たちが一番重要であると考えたのは、今一度学園の設置学校全てが同じ方向性を目指し、一貫した「樟蔭ブランド」を再構築することでした。

そこで、設置学校それぞれが掲げるテーマのもと、それぞれのステージにおいて創立者の想いを「樟蔭美」に昇華することで、学園全体の方針統一を目指します。

以下に示す各校のテーマのもと、長い歴史の中で取り組んできた教育内容と、これからの時代を見据えた新しい取り組みを融合し、長期ビジョンの達成に向け努めてまいります。



(1) 大学 ～美 Beautiful～

人材育成と知的創造活動の場である大学は、今後予測不可能とされている時代において、「自ら考え主体的に判断し行動する力」や「変化に対応するしなやかな力」を有する人材を社会へ送り出す責務があると考えています。そこで、建学の精神を大事にしつつ現代社会の課題に対応したグランドデザインを策定いたしました。

将来に向けて本学が目指すものは、美の「知」、美の「人」を追究し、知性美・情操美・品性美の三つの「美」を兼ね備えた社会の要となる人材の育成を通して社会に貢献することです。まさしく「美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する」大学になります。

ここでいう「美」とは、単なる外見上のものではなく、むしろ内面から醸し出される美しさであり、教養があり立ち居振る舞いに品がある洗練された「美」を意図しています。本学の伝統や現在の学びの実態、そして将来を見据えて「美 Beautiful 2030」をスローガンとしました。

そして「美 Beautiful 2030」の実現に向け、以下の6つのビジョンを掲げます。

ア. 知性の「美」を中心に、情操の「美」、品性の「美」を高める学び ～*Learning*～

価値観が多様化し予測不可能な時代が到来するなか、自ら考え判断し行動する女性の育成に対応した課題解決型教育を展開するため、学生が主体的に学んでいく教育環境を整備します。これらの根底には、知識技能の修得のみならず、他者と共働する社会における情操や品性を磨くことを重視した学びがあります。

イ. 充実したキャンパスライフを支えるサポート体制 ～*Student Support*～

学生の能力を最大限伸ばすため、修学面、生活面、キャリア面でのサポートをさらに充実させます。修学環境の整備や奨学金制度の充実、そして就職活動に対する物心両面からのサポート等、学生ひとりひとりに対応したキャンパス環境をつくりあげます。

ウ. 良きパートナーシップ精神をもった地域貢献、社会貢献の推進 ～*Regional Contribution*～

他者との円滑なるコミュニケーション力を養うため、良き情操と品性を兼ね備えた感性とともに地域貢献活動を積極的に行う学生をサポートします。また、地域と社会が抱える諸問題に対して、大学が持つリソースを活用し貢献していきます。

エ. アカデミックな観点から「美」にアプローチする研究の推進 ～*Research Institute*～

身体等の外面だけでなく内面も含めたトータルに「美」を研究する機関を2020年度に設立し、この研究機関を中心に外部機関との共同研究を推し進め、その成果を社会に還元していきます。

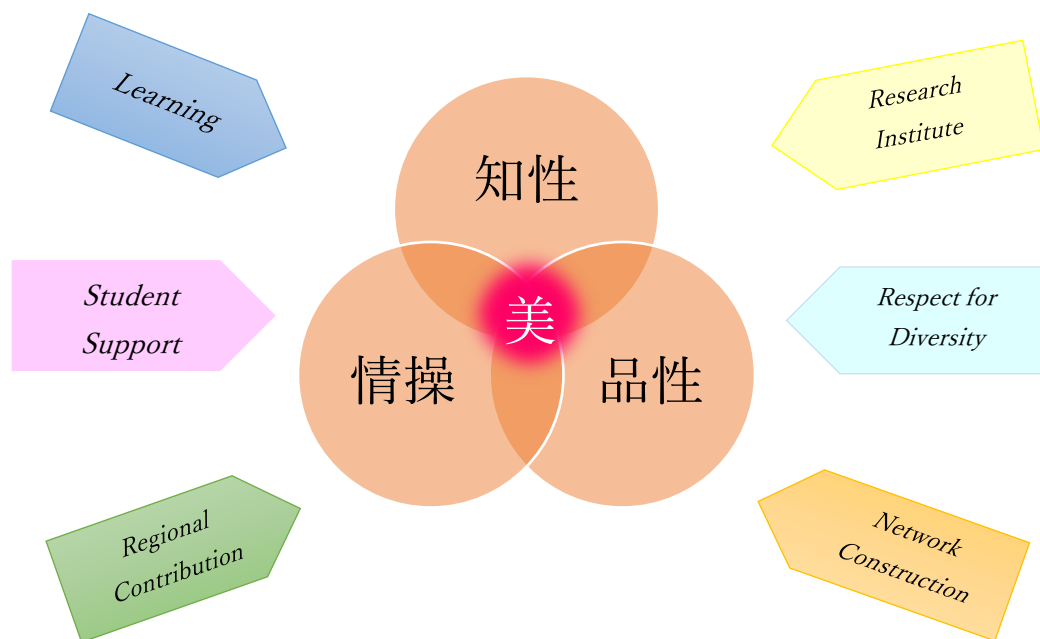
オ. 多様性を尊重し合う学生の受け入れ ～*Respect for Diversity*～

多様な背景を持つ学生同士が刺激し合いながら学びを展開しお互いを高め合う環境となるキャンパスを提供するため、高大接続の在り方を提案していきます。また、努力を惜しまず前向きに考え行動する学生をこれまで以上に受け入れるため、

入学者選抜制度の改革に取り組みます。

カ. 樟蔭から世界につながるネットワーク構築 ～Network Construction～

在学中に留学を経験する学生を増やすとともに、外国人留学生の受け入れも促進し、多様性あふれるキャンパスの実現を目指します。国内外を問わずあらゆる場面で人と人のネットワークが今後ますます重要となってくるため、ワールドワイドなネットワーク構築を通して学生が成長できるよう、サポートいたします。



(2) 中学校・高等学校 ～Little Lady～

樟蔭中学校・高等学校は、本学園の建学の精神である「知・情・意を兼ね備えたところ豊かな女性の育成」に基づき、目指す学校像を次のように考えます。

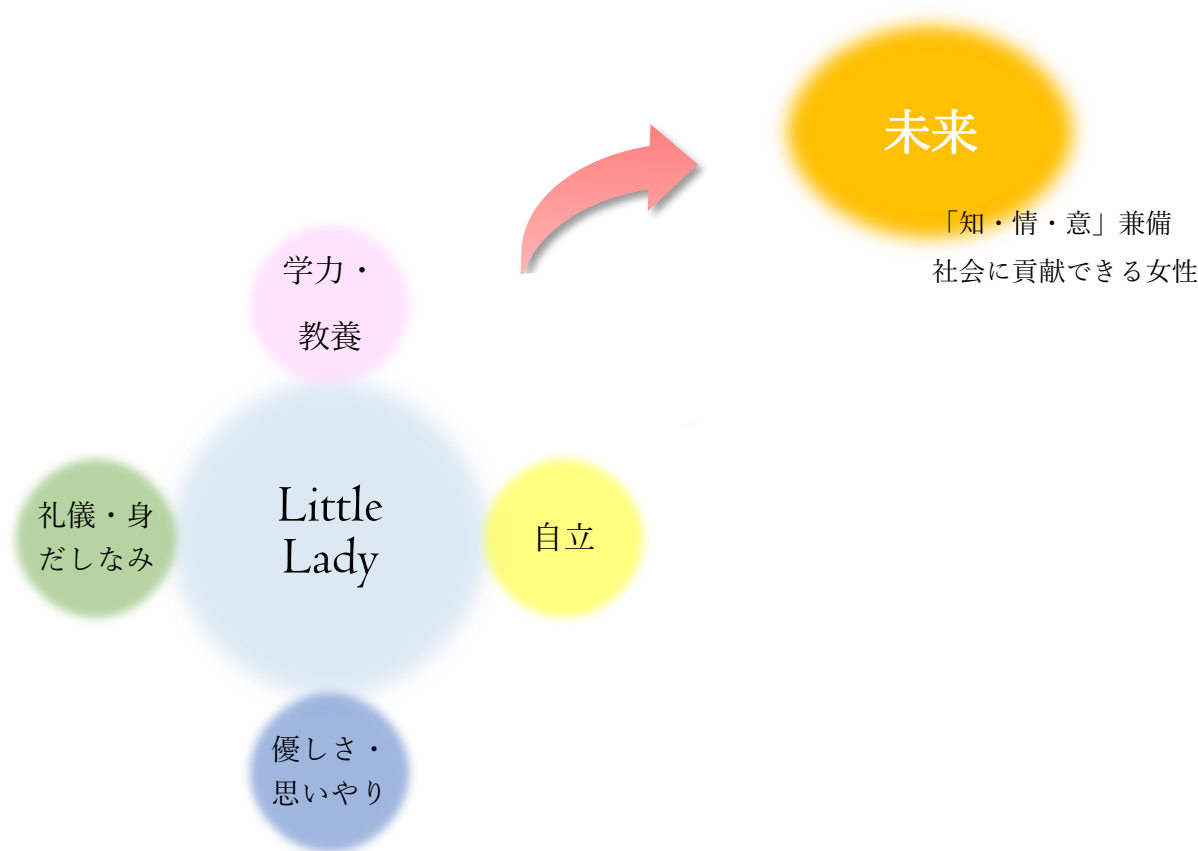
- ① 一人一人の夢を育て、その実現を目指す女子校
- ② 一人一人の思いを大切にす、面倒見の良い女子校
- ③ 一人一人の興味・関心を引き出し、能力を高めていく女子校

近年ますます女性の地位が向上し、男性と対等に働く女性が増えています。学びの場においてもそういう自分をしっかり持った女性の教育が必要です。しかし、そこで大切なのは、けっして女性の男性化を目指すのではなく、男女それぞれが長所を認めあい、尊重しながら、協力しあうことが最も重要であると私たちは考えます。女性本来がもつ素晴らしい能力、特性を伸ばすことを、本校では第一の目標に掲げ、女子の教育校としての一貫したスタンスを持ち続けてきました。そのため、私学ならではの充実した教育組織・教育環境の充実はもちろん、明るく、知的で、のびのびとした、しかも規律のある清々しいひとりの女性の教育を図っています。

本校では、しっかりとした学力と教養だけではなく、優しさや思いやりにあふれ、精神的にも自立した女性を「Little Lady」と呼んでいます。これは、本学園の建学の精神を具現化したものであり、まさに「樟蔭美」を表す言葉です。

数年前より行っている取り組み「樟蔭レッスン」の時間では、学園の歴史、挨拶や言葉遣い、姿勢、マナー等を学び、思いやりの心、さわやかなあいさつ、正しい言葉づかい、美しい振る舞い、さらにはしっかりとした教養を身に付けた真の「Little Lady」を育てます。

この「Little Lady」の精神は、生徒一人一人が自ら進路を選択し、社会に貢献し得る女性へと育つための礎となるものです。これは幾年先、どのような時代にも必要なものであり、本校のテーマとしてこれからも変わらず持ち続けます。



(3) 附属幼稚園 ～「根っこ」を育てる教育～

本園は大学児童教育学科の附属研究教育施設として開園以来、充実した幼児教育を実践するとともに、より良い教育を目指し、研究・実習の進歩・向上に努めています。

私達が考える幼稚園の教育とは、樹木に例えると、「根っこ」を育てる教育であると考えています。幼児期の生活の中心は遊びであり、そこから約束やルールを守ることの大切さに気づき、互いの尊重や責任、忍耐、思いやり等の人間関係の基礎を身につけていきます。

また新鮮な好奇心や探求心が刺激され、将来、知識を蓄えるための基礎が培われます。そのためにはこの大切な幼児期に数多くの様々な経験や体験を積み重ねることが重要であり、そしてそのことがより良い生活を送るための「根っこ」を育てることになると私達は考えています。

子ども達一人ひとりの輝く未来に向かってその素地を作ることこそが、幼稚園における「樟蔭美」であり、私達の使命であると考えています。



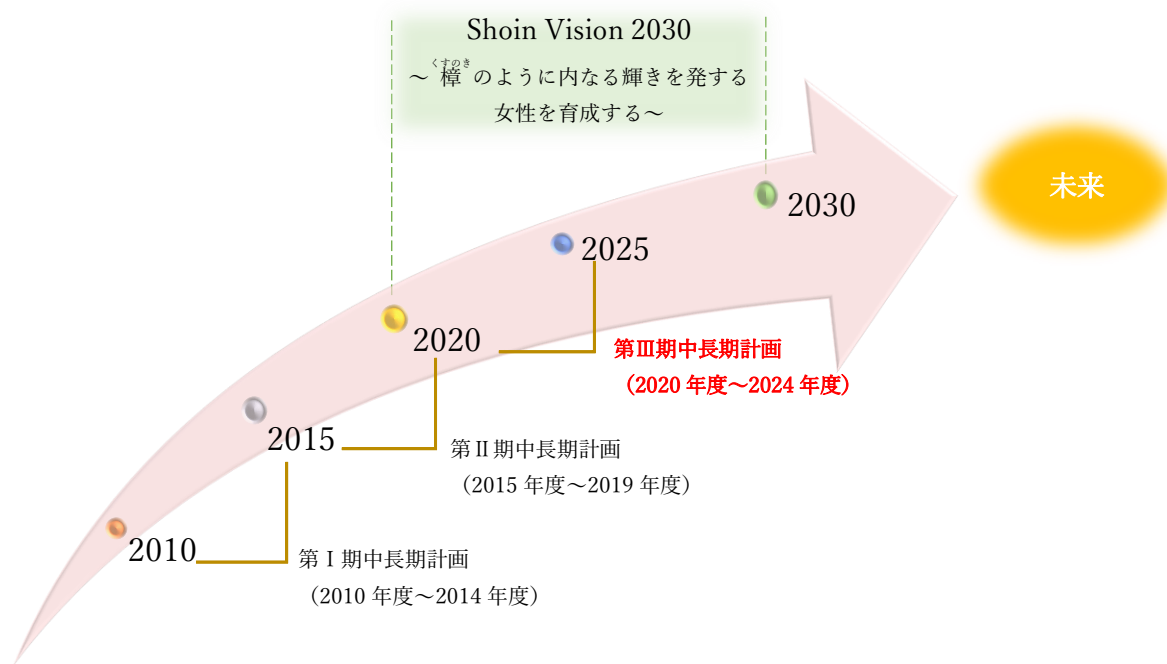
幼児期は、未来を生きるための根っこを育てる大切な時期。たっぷり時間をかけ、十分に深くおろした根っこからは、いつの日にか大空に向かって真っすぐに伸びるすこやかな木が育ちます。

II. 長期ビジョン達成に向けた中期計画

1. 中期計画の位置づけ

中期計画とは、長期ビジョンを具体化するための中期の計画です。

本学園では2010年度より、5年間を一区切りとして中長期計画を作成してきました。2020年度から2024年度は第Ⅲ期にあたり、Shoin Vision 2030の前半として重要な5年間に位置づけられます。



- ・1917 「樟蔭高等女学校」設立

『高い知性』と『豊かな情操』を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成

2. 設置学校の中期計画

(1) 大学

ア. 2024年度のあるべき姿

大学は、教育と研究を一体不可分のものとして人材育成と研究活動を行う高等教育機関であり、社会に対して「人材輩出」ならびに「知の基盤拠点」としての役割を担っています。地域社会との緊密な関係構築は当然のこととして、初等ならびに中等教育機関との連携を図っていくことと併せて社会に認識されなければなりません。大学では2030年に向けて策定したグランドデザインをベースに、2024年は中間年として以下にあるべき姿（ビジョン）を記します。

- ① 課題解決志向の人材育成を図るべく、学修者主体の教育カリキュラム体制を確立し、学生が「何を学び、身に付けることができたのか」が実感できる教育の円滑なる実施がなされている。
- ② 多様な学生に対応した修学環境の整備、奨学金制度をはじめとする経済的支援の充実、ならびにキャリアサポート教育や就職活動支援の充実等、学生が安心してキャンパスライフを送ることができるよう学生サポート体制の円滑なる実施がなされている。
- ③ 地元・東大阪市を中心とした地域社会が抱える諸問題に対して、大学が有するリソースを活かした連携活動が活発になされている。
- ④ 2020年度に設立した「美科学研究所」の研究活動が社会的に認知され、他の研究機関との共同研究が行われている。
- ⑤ 2021年度入試からスタートした入学者選抜制度を円滑に運営し、倍率のある選抜がなされ学園の経営安定に寄与する入学者を受け入れている。留学生も含めた多様な価値観を有する学生が集うキャンパスとなっている。
- ⑥ 在学生の一定数が恒常的に海外へ留学し、逆に海外からの留学生も一定数を確保し、グローバル社会に対応したキャンパスとなっている。

イ. 中期計画の概要

- ① 使命・目的の実践
 - a. グランドデザイン 2030 と変化への対応

2030年に向けてグランドデザインを確実に実行するとともに、社会情勢・動向を考慮し社会に求められる学部学科になるよう改革を行います。
 - b. 教育研究組織の革新と充実

各学部・学科の長所を活かし、学芸学部・児童教育学部・健康栄養学部それぞれの教育の充実を図ります。
- ② 学生の受け入れ
 - a. 安定した学生確保に向けた入試制度・広報体制の整備

新入試制度への対応、広報体制の整備、ステークホルダーとの連携強化を行い、安定した学生確保を図ります。
- ③ 学生のサポート
 - a. 学修支援

学修者本位の学びができる環境を提供し、特別な配慮を含めた学修支援の充実を図ります。
 - b. キャリア支援

1年次から4年次までのキャリア教育体制を整え、就職・進学支援体制を充実します。さらに、教職支援センターを中心に教職希望者に対する支援策を実施します。
 - c. 学生生活支援

すべての学生が充実した学生生活を過ごせるよう学生生活支援体制を充実します。

d. 学修環境の整備

施設設備を適切に整備し、バリアフリー化を含む利便性にも配慮します。

e. 学生の意見・要望への対応

学生の意見や要望について複数の調査・アンケートにより収集・把握し、分析を行い適切に対応します。

f. 退学者低減に向けた支援の充実

IR データに基づき、退学者数の低減に向けた施策を推進します。

④ 教育課程の改善

a. 3つのポリシーの継続的な検証と改善

毎年、各学部・学科の3つのポリシーを検証し、教育課程の改善に努めます。

b. カリキュラム・教育方法の改善・向上

カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、適切な卒業判定・進級判定を行います。また、柔軟な学年暦を運用するとともに、教育方法の改善を不断に行います。

c. 学修成果の点検・評価

毎年度、3つのポリシーを踏まえた学修成果について点検・評価を実施し、学生自身が学修成果を実感できるような仕組みを構築します。

⑤ 教学マネジメント、教員・職員配置、研修

a. 教学マネジメントの機能性の向上

学長がリーダーシップを適切に発揮し、教学マネジメントの体制を再構築します。

b. 教員の配置

大学及び大学院に必要な専任教員を適切に配置します。

c. 教員・職員の職能開発・研修

FD、その他教員研修を組織的に実施し、教職員の資質・能力の向上を図ります。

⑥ 研究支援

a. 研究活動の推進・充実

外部研究資金獲得の支援を充実し、研究環境を整えるとともに、学内のリソースを活かし学外の研究機関との共同研究を推進します。

b. 樟蔭美科学研究所の設立・運営

学内外の研究者、研究機関との美に関する共同研究を推進し、研究成果を社会に還元します。

⑦ 内部質保証

a. 内部質保証のための自己点検・評価の実施

全学的に自己点検・評価を毎年確実に実行します。

b. 教学 IR 体制の強化

各種情報を集約し、教学マネジメント体制の改善・改革に必要なデータの開示と積極的な活用を推進します。

⑧ グローバル化への対応

a. 国際化に対応した教育体制の構築

内なる国際化に対応した語学教育の充実、海外研修の強化、外国人学生の受け入れを推進し、グローバル教育を行います。

⑨ 地域連携・産学官連携

a. 地域連携

地方自治体との協定による学生主体の活動を行い、学生の成長へ繋げるとともに、くすのき健康栄養センター等の学内組織を活用し、地域に貢献します。

b. 産学官連携

企業、地方自治体からの相談、受託研究受入窓口を開設し、産学官連携の活性と強化を推進します。

(2) 中学校・高等学校

ア. 2024 年度のあるべき姿

本学園の建学の精神である「知・情・意を兼ね備えたところ豊かな女性の育成」に基づき、長期計画では、樟蔭中学校・高等学校の目標とする学校像を次のように考えています。

- ① 一人一人の夢を育て、その実現を目指す女子校
- ② 一人一人の思いを大切にす、面倒見の良い女子校
- ③ 一人一人の興味・関心を引き出し、能力を高めていく女子校

2024 年度までの中期計画として、生徒たちが学ぶ意欲を高め、自ら生きる力を発見し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てていく「キャリア教育」を推進して、100%の進路実現を目指します。

また、生徒一人一人がお互いの違いを認め、相手を尊重する気持ちや思いやる心を育めるように、きめ細やかなサポートを行います。

さらには、授業や学校行事、クラブ活動等を通じ、個々の能力を高めるとともに自己肯定感が得られるように、様々な取り組みを進めます。

この目標が 2024 年に達成されているためには、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」を確実に実行する必要があります。すなわち、少子化とともに、多様化する生徒に対応したきめ細かな教育内容となるよう、各成長段階や到達段階に応じたカリキュラムを編成すると同時に、生徒の成長を把握し、分析しながら適宜改善を行っていきます。

また、カリキュラムをより効果的に実施していくために、「アクティブ・ラーニ

ング」という視点から、主体的・対話的で深い学びができるような様々な取り組みを計画し、着実に実践し、到達点を検証・評価し次の取り組みに反映する、すなわち PDCA を確実に実行します。

その結果として、中学校（定員 100 名）では、基礎・基本となる学力を確実に自分のものとするとともに、正しい礼儀や身だしなみをしっかりと身に付けた「Little Lady」の基礎作りが完成し、高校（定員 310 名）では、「キャリア教育」を推進するとともに、各コースの特色を生かした主体的な取り組みを行い、それぞれの進路希望が 100% 実現し、社会に貢献し得る女性として次のステップに進んでいくことになります。

イ. 中期計画の概要

① 樟蔭女子教育

a. 「知情意」を兼ね備えた Little Lady の育成

生活指導を通し、情操教育・マナーを身に付け、思いやりの心を持った Little Lady を育成します。

b. キャリア教育の実践

発達段階に応じたキャリア教育を実践し、生徒全員に自分の将来を考える力を持たせます。

c. 人間力の育成

励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動を実践します。

② 定員充足

a. 生徒及び保護者の口コミによる広報効果の向上

生徒・保護者の満足度を上げ、口コミを生徒募集へ繋がめます。

b. 広報活動の充実

塾・中学校への訪問、メディアによる効果的な広報活動の充実を図ります。

c. 新たな広報活動の実施

樟蔭イングリッシュアカデミーを実施し、入学者を確保します。

③ 教育力の向上

a. 教員の資質の向上

教員一人一人の授業力の向上、生徒・保護者への対応能力の向上を図ります。

④ 進路希望の 100% 実現

a. 学力の向上

補習等の制度を充実し、生徒の学力を向上させることにより、進路希望 100% を実現します。

⑤ グローバル化への対応

a. グローバル教育の実践

グローバル教育を充実し、グローバル化に対応できる生徒を育成します。

⑥ サポート体制の充実

- a. キャリアサポートクラスの運営の充実
 - キャリアサポートクラスを 2 クラス編成とし、きめ細やかなサポートをします。
- b. 強化クラブの充実
 - 強化クラブが近畿、全国大会に出場できるよう指導体制を整えます。
- ⑦ ガバナンスの強化
 - a. 中高組織の点検と見直し
 - 各部署・各委員会・各教科の業務見直し、会議時間の短縮、教員の授業持ち時間数の見直し等を行います。
 - b. 外部評価による組織の改善
 - 外部からの評価・意見を取り入れ、評価結果をもとに改善します。
- ⑧ 安心・安全な環境の提供
 - a. 環境整備
 - 校内の教育設備を整備し、教育環境を改善します。
 - b. 災害対策
 - 災害に備え、避難訓練を実施し、災害備蓄品を完備します。

(3) 附属幼稚園

ア. 2024 年度のあるべき姿

附属幼稚園の保育目標として、「のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間形成の基礎を培うこと」を掲げています。いわゆる「根っこを育てる」という言葉を通常は使っていますが、それを実現するために、次のような幼稚園を目指します。

- ① 伝統を重んじ、附属ならではの強みのある幼稚園
- ② 子どもの 5 年後、10 年後を見すえた根っこを育てる教育を提供する幼稚園
- ③ 子どもや保護者に寄り添い、忘れえない思い出となる体験型幼稚園
- ④ 子どもが主体となる生き生きとした教育を支える質の高い教師力のある幼稚園
- ⑤ 子どもも保護者も教師も笑顔あふれる幼稚園

イ. 中期計画の概要

- ① 入園者の確保
 - a. 教育の質の向上
 - カリキュラムの見直しを行い、保育内容を充実します。
 - b. 職員の質の向上
 - 全職員が保育内容について共通理解をするとともに、定期的・体系的な園内研修を実施し、職員の質を向上します。
 - c. 子育て支援の充実

長期休暇中の預かり保育、給食の回数を増加し、子育て支援を充実します。

d. 商圏エリアの拡大

車通園者が日常的に車止めを利用できるようにします。

e. 広報活動

有効な広報媒体を検証し、広報の充実を図ります。

② 未就園児確保

a. 未就園児クラスの充実

未就園児クラスの保育時間を延長します。

b. 園庭開放の充実

園庭開放について効果的な広報を行い、来場者数増加につなげ、内容を充実することによって来場者の満足度を向上させます。

③ 安心・安全の確保

a. 環境整備

計画的に点検・修理・修繕を行い、安心・安全な保育環境を提供します。

④ 大学との連携

a. 様々な学科等との連携

大学の各学科及び英語教育センターと様々な連携を行います。

⑤ 地域との連携

a. 地域交流の充実

幼稚園行事を地域へ開放し、地域交流の充実を図ります。

3. アクションプラン

2024年度のビジョンを達成するため、5年間における各施策の目標と年次推進計画をアクションプランとして策定しました。

今後この年次推進計画を実行し、年度毎に検証を行うことにより、PDCAサイクルを確立します。



学校法人 樟蔭学園

〒577-8550

大阪府東大阪市菱屋西 4-2-26

<http://www.osaka-shoin.ac.jp/>

